

新潟県

平成4年

# 公民館月報

3月  
第469号

## 特集 伝承芸能「綾子舞」を守る

### 柏崎市鵜川地区公民館探訪記



今日のつどい

夢があるから

集いがある

ことばが違っても

心はずみ

地球の間とは

力がこもる

小さな輪でも

世界は一つ

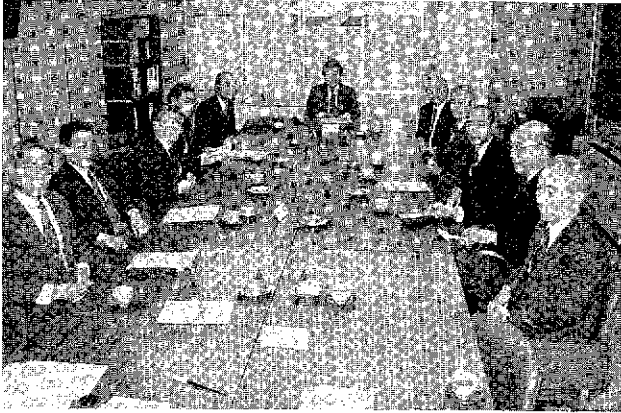
「92世界のつどい」

国際都市長岡をめざして  
四回目を迎えた公民館主  
催事業である。

(写真員提供)

長岡市中央公民館

### 第 四 回 理 事 会 開 催



去る二月十四日(金)、平成三年度最後の理事会が、新潟市中央公民館において開催された。主たる議事は、今年度の活動の反省と歳入歳出決算見込。平成四年度の基本方針・事業計画の検討ならびに歳入歳出予算案づくりにあった。今年度の決算見込みについては、関プロ公研集会の決済残、同記録集の作成販売益、当会創立四十年記念誌の作成販売益があり、昨年度を上まわる繰越金が増加見込まれた。

来年度の運営については、基本方針に「研修と組織の充実・強化」が挙げられた。事業では、主事会再結成に向けて、準備会を持つこと、続いて重点事業には、公民館長研修が取り上げられている。以上の二点については次のとおりである。

一、主事会の結成に向けて これまでの郡市公連事務局長会議に代わり、県公連の内部組織(専門委員会)として結成しようというものの、県公連の活動について、主事等職員の主体的な意思を反映することを狙っている。結成作業については、拙速を避け、主事等職員の

# 来年度事業のプランニング

## 研修の充実と

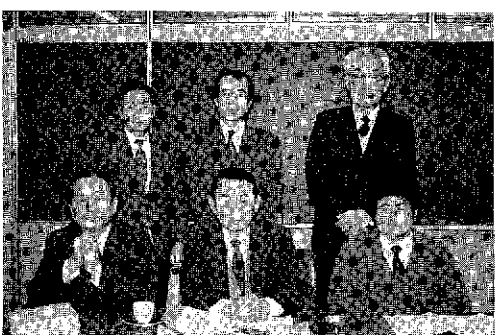
## 組織の強化を目玉に

意志を尊重したものにすため、一年間を準備の年として取り組みたいとしている。

二、公民館長研修の充実 平成三年度の新規事業として実施された公民館長研修が極めて好評だったことから来年度も継続実施するもので、より一層の充実を考えている。

### 第 2 回 編 集 委 員 会 開 催

## 本紙の紙面づくりを検討



二月十八日(火)、新潟市中央公民館会議室において、第二回編集委員会が開催された。

今年度最後の会であると同時に、現編集委員の任期満了となる委員会でもあり、来年度の新委員に遅滞なく事業が継承できるようにと、活発な意見がだされた。その内容は、「公民館月報」の編集に関するもので、概要は次のとおりである。

1. 表紙の「市町村紹介写真」は、興味が有り、読者の関心も高い、ということに継続することとする。

- なお、来年度は、県教育委員会と共催(新設の県生涯学習推進センター)事業となる可能性もあり、細部は今後のことになろう。
- いずれにせよ、公民館長として「そこが知りたい」内容を精選して研究や討議を深めるものになると思うので、期待される研修になろう。
- 第43回県公民館大会が両津市で開催されることはすでに周知のところであるが、研修の視点を地区館・分館(含類似施設)の運営においたものになる予定。関係者の多数の参加が望まれる。
2. 辛口については、今年度は女性の立場からの意見を特定してきたが、来年度は女性に限らないで、広く公民館の理解者・協力者から善意の辛口の意見を公募することとする。
3. 「ひろば」欄は今年どおり公連審委員の方々の交流の場として継続する。
4. これまでの「特集」記事については、より一層公民館職員の実際活動に結びついたものとするため、これまで六面に取上げてきた実践記録シリーズ「百館百様」を四・五面に移し、二館ないし三館取り上げることにした。この場合、一館は中央公民館や地区公民館の特色ある活動を、もう一つの館には分館や類似施設(地域分館と呼ぶところもある)を取り上げるようにしたい、としている。但し年間の五・六回は、いわゆる特集ものとして、「県公民館大会」「関プロ公研集会」「全国公研集会」などの中から、必要ある今日の課題を取り上げることになる計画である。
- これにより、第六面は生涯学習推進と公民館との関係等の解説記事になるもよう。
5. 七面以下の、「サークル交流」「素顔拝見」「ネットワーク」については従前のおり踏襲していきたいとしている。

# 生涯学習推進センターの構想を聞く

## 生涯教育センター設置促進委員会

去る二月二十日(木)、午前十時半から、生涯教育センター設置促進委員会では、会長伊豆野壹郎氏(両津市長)他代表四委員によって、県教育長堀川徹夫氏を訪れ、平成四年度に設置が計画されている「県生涯学習推進センター(仮称)」の機能等についての説明を受けた。

それによると、県立図書館の併設施設として、生涯学習推進

のため、調査研究、情報提供や相談機能、更には、指導者育成・研修機能が備えられたものとなる構想である。(細部は次号で紹介する予定)

なお、これにより、当促進委員会の要望してきた内部が或る程度満たされたことから、今後の運動をどのようにするか、検討することになるもようである。



# 辛口

新潟市の女性センターが、昨年八月にオープンしてから半年。様々な講座やセミナーの運営をお手伝いして驚くのは、保育ありの催しの保育室の定員がどの催しでもいっぱいになること

す。社会参加や再就職の時期に学ばなくとも、子どもの手が離れたいという若い母親「子育て中でも学びたい」という声もよく聞かされる。今この時期だからこそ、

の要求に添えてくれる機会はまだほんの僅かです。公民館の案内を見ても、家庭教育学級以外には、保育(託児)つきの講座はあまりありません。「何もこ

の時期に学ばなくとも、子どもの手が離れたいという声もよく聞かされる。今この時期だからこそ、

どもが安全で快適に過ごせる場所を用意しなければなりませんし、更に保育者の確保という問題もあり、保育なしの講座を開催する何倍ものテーマ・ヒマを要します。が、実りもまた大きいとは考えられないでしょうか。

どの公民館にも保育室が常設され、母と子の学びが保障されることを希望します。

(にいがた女性会議 会員)

吉田久美



の要求に添えてくれる機会はまだほんの僅かです。公民館の案内を見ても、家庭教育学級以外には、保育(託児)つきの講座はあまりありません。「何もこ

の時期に学ばなくとも、子どもの手が離れたいという声もよく聞かされる。今この時期だからこそ、

どもが安全で快適に過ごせる場所を用意しなければなりませんし、更に保育者の確保という問題もあり、保育なしの講座を開催する何倍ものテーマ・ヒマを要します。が、実りもまた大きいとは考えられないでしょうか。

どの公民館にも保育室が常設され、母と子の学びが保障されることを希望します。

(にいがた女性会議 会員)

# 町民会館を利用してみて

田村良子



わが聖籠町には、公民館と文化会館を合わせた町民会館があり、

たら、皆さんに高い理由を納得していただいで大勢の人たちに来ていただく。そんな関係の会館になれたら最高なのではないでしょうか。

素晴らしい会館を建てても利用し、関心を持たなければ何にもなりません。

幼い時から親子で参加し見て、聞いて楽しむ。そんな芽を育てておいてあげられれば大きくなって、もちろん、素晴らしいピアノ演奏を聞き、趣味を楽しみ、友だちの輪を広げ、活気のある町民会館になることを期待します。

(聖籠町公民館運営審議会 委員)

# ひろば

原稿募集

この広場欄は、市町村公民館の運営審議会委員の皆さんの情報交換のスペースです。

公民館に関すること、花鳥風月四季の移りかわりなど、自由な原稿をお寄せください。お待ちしています。

字数は750字程度と、顔写真(サイズ不問)をお送り下さい。

(編集部)

色々なサークル活動、文化事業等が盛りだくさんに計画され、子どもからお年寄りまで参加して楽しんでいきます。が、その反面、参加や観賞が一回もないという人もいないではありません。「全く関心や興味がないので」と言ってしまうはそれまでですが、事業や活動に魅力がないとも言えませぬ。一人ひとりの要望を取り入れては事業は成り立ちませぬし、館側の態勢もあります。

では、どうしたらよいのでしょうか。例えば、サークル活動をしたいけれど小さな子どもがいるので参加できない、というような声が聞かれたら、保育室を設けて「子どもさんをみてあげますよ」というような意気込みが示されれば、私たちも心配ないわけではないと思います。「料金が高いのでは」と言われ

はじめに

「地域に根ざした学習活動」が公民館の事業の本命であることは昔も今も変わりがない。そして、これからもそうであり続けるためには、「地域文化と公民館」とのかかわりをより密接にすることが大切である。

その視点から、伝承芸能の保存継承という課題に、いま真剣に取り組んでいる公民館の事例を紹介し、問題提起としたい。取り上げたのは、柏崎市鶴川地区公民館の「綾子舞」への取り組みである。同市中央公民館の小山、鳥島両主事さんの厚意により公民館を採訪した。

探訪記

「子舞」を守る

地区公民館

「綾子舞」とは

綾子舞とは、柏崎市の中心部から十六軒奥地に入った鶴川地区に伝わる「国指定重要無形文化財」である。今から五百年ほど昔、戦いに敗れてこの地に逃れた越後の守護職上杉房能の奥方綾子の方が伝えられたものと言われる舞いで、踊り・狂言・謎子舞の三つからなっているもので、鶴川地区の下野・高原田三集落で受け継がれてきたものである。

伝承についての、これまでの経緯はなかなか複雑なものがある。明治になるまでは、庄屋の家が世襲で継承するもので門外不出の秘密になっていたもの、舞いを稽古をするときは、家の戸口や窓を閉ざして、外部から見えないようにしたものだといふ。

明治以降は、庄屋の世襲としての継承から、鶴川村の両集落の伝承に変わりそれまでのような極秘事項ではなくなつたものの、集落内の守秘事項としてきたため、今日でも閉鎖性を維持して、いわば二つの流派的な関係で伝承されてきているものである。

鶴川地区公民館

鶴川地区は、柏崎の市中心部から国道353号を十六軒余り南下した奥地にあり、東頸大島村に隣接した山間の過疎の進んだ地区である。公民館は、人口340人、147戸をサービスマニアとする3階建ての施設である。年の瀬も押し迫った12月19日、夜7時半から今年度の納会が行なわれるというので訪ねた。

迎えてくれたのは、公民館長の高橋完一氏と張り切り指導員

公民館と綾子舞

「綾子舞」は、先に触れたように国指定の重要無形文化財を保存し伝承するという大きな使命を持ったものであり、これらの活動をおして地域の活性化を図ろうとするものである。そもそも、この「綾子舞」の保存伝承のために、地域の女性たちの力に依らなければならぬと考えたのは、公民館長の高橋完一氏の発想であった。そして、指導講師の布施富治氏を説得して公民館の学習活動の一環に組み込んだのであった。

またその中の一つである。このことを憂慮した高橋完一館長および公民館推進員のたちが、「綾子舞保存振興会」の関係者に相談を持ちかけたものである。しかし、

①、国指定の重要無形文化財を安易に大衆に指導しても、正しい格調の踊りとして伝授できないであろうという危惧と、

②、鶴川地区の伝統芸能が、公民館の講座(一般開放)になるとういことで地区外への流出を恐れて、安易に賛成してもらえなかった。

しかしながら、保存振興の指導員(伝統技術保持者)自身が高齢化しており、継承活動は一刻も猶予できない焦眉の急の状況にあった。そのことは、保存振興の責任の立場にある布施さん自身が誰よりもいちはやく感じていたことでもあったため、件の問題を克服して公民館の講座に取り上げられることになったのである。

かくして、公民館では平成2年4月、公民館広報に掲載して受講者を募ったところ12名の希望者を得て開講することになった。平成2年度に続いて、今年度も6月17日を第1回目として毎月2回水曜日の夜七時半から九時半まで講義と実習を続けているものである。

受講者たちは

三階の郷土民芸伝修場には十人の受講生の熱心な練習の風景が展開していた。先程まで大きな声でさざめきあっていた女性たちが、いま、うって変わって、厳しい表情で真剣そのものであ

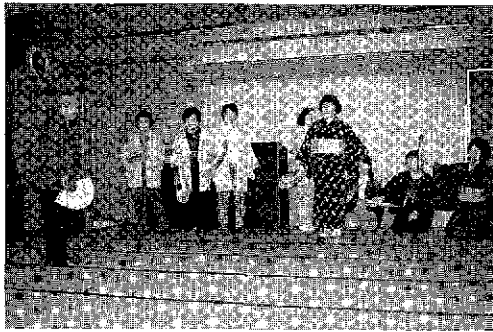
# 公民館

## 伝承芸能「綾

柏崎市鵜川

ん。でも、それよりも私たちでも「綾子舞」を教えてもらえる、踊らせてもらえるのだという嬉しさや、喜びの方が大きいのです。」という答えが返ってきた。ことほど左様に、これまでの秘伝継承主義というか、閉鎖的伝統からの開放を喜んでいるものであった。

受講者の総勢は12名で、主婦たちばかり。若い独身女性の中にも参加希望者がいないわけではないのだが、仕事が忙しいことと、趣味が多様化していることもあってこの人たちだけなの



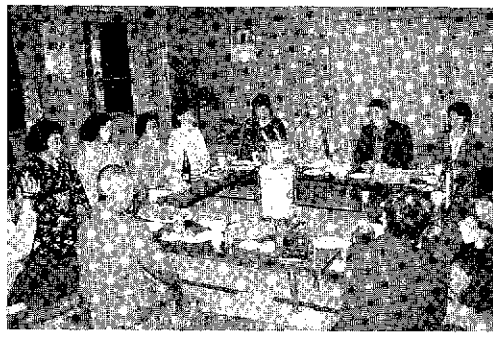
る。指導にあたっては、布富治氏の激しい注文に一つ一つならずながら、踊りの所作を繰り返して練習している。その一人ひとりの表情には、「わたしたちが伝統芸能を継承していくのだ！」という使命感に溢れているように思えた。

所定の練習を終え、今年度の講座に一区切りつけた納会の席では、どの顔にも、やりとおした満足感、充実感が溢れていた。そこで、彼女たちに、伝統芸能の伝承という責任感、使命感について聞いてみると、「たしかに、伝統芸能を私たちが継承しなければ、という責任感や使命感を感じないわけではありませ

だという。

「このメンバーのなかには小学校の時に習った人が一人だけだけれどもいます。あとの人たちは全部よそものです」という

声にギョッとして聞きかえすと「みんな鵜川地区外から(結婚によって)入ってきた人ばかりなんです」という。その小学校時代に習ったという女性は、「あ



れから十数年踊っていませんから、すっかり忘れています。それに、あのころは、こんな大事な役割を負っているとは実感していませんでしたからね」とおっしゃる。小学生に伝承継承の役割を期待しても、女性は結婚で地域外へ出ていく人が殆どである。男性も職業を求めて地域外へ出なければならぬのが過疎地の宿命である。高橋館長の憂慮や、布施振興会副会長の講座開設承諾への妥協もここにあったのだとうなづける気がする。

ただ一人、市内中心部から参加しているという女性は、「以前、「綾子舞」を見て習いたいものだと思っていたのです。このたび公民館で講座を開くということを知って、ぜひ仲間に入れてほしいと申し出たわけなんです。地区外からは私ひとりなので、不安でしたが受講者の皆さんが仲間にいられてくださって親切にしてくださいるので、毎回欠かさず楽しみに通っています。」と話していた。マイカーで通うとは言いながらも十六料の奥地まで、しかも、夜の道を通ってくるのであるから、並の思い入れではあるまいと感じさせられた。

### むすび

暖冬とはいいながらも、市内随一の豪雪地の鵜川の夜は寒い。数日前に降った雪が周囲に積もっている雪明かりの中を、見送ってくれた受講者の元気な声をあとに辞去した。時計は九時三十分をまわっていた。

今年二年目は、鵜川地区の夏祭りに発表会を持つことを望んだのだが、指導講師の布施さんから許しが出なかった。が、十一月の市民芸能祭にはどうやらお許しが出て、市民の前で発表する機会を得、受講者たちが喜んでくださるまでもないが、一般市民からも大好評だったという。しかし、講師の布施さんは、由緒ある「綾子舞」を不完全な踊りのままで一般への発表は本意ではなかったようだが、受講者の熱心な学習の姿勢に感心したこと、それを評価し、

特別に許可が出されたものであった。

今後一層「踊り」に磨きがかかる必要があるという。また、まだ残されている未学習部分の「踊り」への取り組みを続けていく課題も残っているという。さらなる「綾子舞」の充実に向けて学習は継続するものであろうし、それを期待するところである。

（上村記）

百館百様

# 夏季セミナー in 赤城

## 異業種間交流による

### 人づくり・まちづくり

はじめに

事業のねらい

生涯学習時代を迎え、住民の生涯各期の学習意欲が旺盛になりつつある、とはいうものの、成人の場合、学習阻害要因が多く、公民館での学習参加者が少ないのが問題にされている。

そこで、そのことに挑戦している小千谷市の「夏期セミナー in 赤城」の取り組みを紹介して

どこの市町村でも、「まちづくりは人づくりから」を標ぼうして懸命に取り組んでいると思われ、当小千谷市でも、市民が一体となってまちづくりに取り組める方策を模索してきた。

これまでは、まちづくりはまちづくり、人づくりは人づくりで取り組み、それぞれ別々に課題を解決することが多かったよ

## 第1回小千谷市「夏季セミナー in 赤城」日程

平成3年9月4日(水)～7日(土)  
 ところ 国立赤城青年の家  
 参加費 2万円(食費、宿費、テキスト代等)

各プログラムをとおしての目標

- 教育者としてのリーダー育成
- 企業・団体・グループ等のリーダー育成
- 一人の人間としての人格の向上
- 国際的視野から、今後の政治、経済、社会の動向の把握
- 企業内活力を引き出すための関係
- 事業の創造
- 事業の創造
- 企業内活力を引き出すための関係
- 事業の創造

各プログラムをとおして、下部リーダーの素質の向上

学習日	時間	内容
第1日	8:45～10:15	8:00 出発 市民会館前
第2日	10:30～12:00	10:00～11:40 オリエンテーション 高橋工務店 経営方針について
第3日	13:00～14:30	12:40 赤城青年の家 入居(お祭り) 閉講式
第4日	14:45～16:15	講義 I 酒感の特性と生産者の生活(藤田 邦雄)
第5日	16:00～18:30	自由討議 ふるさとのために お祭り 小出 邦子
第2日	10:30～12:00	講義 II 酒感の特性と生産者の生活(藤田 邦雄)
第3日	13:00～14:30	講義 III 酒感の特性と生産者の生活(藤田 邦雄)
第4日	14:45～16:15	講義 IV 酒感の特性と生産者の生活(藤田 邦雄)
第5日	16:00～18:30	自由討議 ふるさとのために お祭り 小出 邦子

うに思われる。

そこで、この両課題を融合させるため、縦に分割されている行政・企業・地域・個人等の課題を、横から輪切りにしてとらえることよって、個々の課題がより密接な関連性をもつのではないかと考えたわけである。

### 事業の展開

1. 参加対象は、市内在住者・市内の企業・団体・グループ等に属している概ね35歳～50歳の男女35名程度に設定した。

事業のPRについては、市の行政広報への実施要項の紹介や、各企業への訪問等により、企業主への理解を得て参加者の勧誘をすることにした。その結果は、企業主の極めて好意的な協力により想像以上の参加者を得ることができた。

### 事業を終えて

参加者からはもとより、三泊四日の長期間にわたる研修に理解を示してくれた企業主、更には、講師陣からも大変な好評を博した。

その第一は、教育委員会事業として、民間企業の従業員を含めたこの種の事業は全国的にも少ないという講師の評価。第二は企業主から、いわゆる企業内教育では得難い視野の広さ、発想の豊かさなどにつながる成果を得たと喜んでもらった。第三に、何よりも参加者自身、異業種間交流による人間的な幅の広さとともに、自分たちの住む郷土小千谷市についての見直しや再発見ができたことが嬉しかったと言っている。

### おわりに

成人対象の事業の不振が指摘されている中で、挑戦的試みの内容によっては、十分に成立する確信を持った。

とくに自分たちの住む小千谷市内に対する関心の高まりと、まちづくりへの意欲は予想以上のものがあった。その最大の理由は、小出市長のわざわざの来所により、参加者と膝を交えた「ふるさとの未来」を語りあったことに強いインパクトを感じたからであろう。

余談ながら、この事業に触発されて、参加者による「地域を見直す会」の結成が本格化していることである。このグループが中心になって、やがて、「市の将来への提言」がなされるに違いない。

3. 何しろこの事業は初めての取り組みであったから、全てが手探りの状態のため戸惑うこと

その成果を得た理由は、①企業の時点で、最も気をつかった

参加者の学習ニーズを尊重したことにある。②参加者自身の学習への取り組みが極めて積極的、かつ、終了後の態度に生き生きと励んだことが、企業主が求める人材育成の援助になったことであろう。③また、実はこれが最も重要なことであるが、まちづくりに関心を示し、前向きな姿勢になったことである。

百館百様

小千谷市教育委員会派遣社会教育主事 池田正 義記

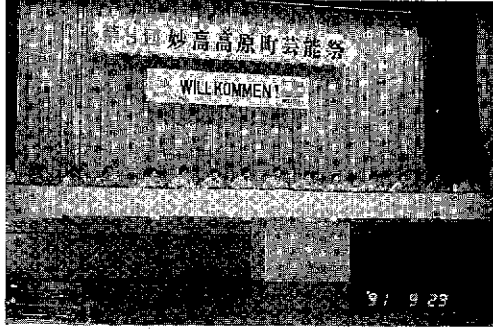
# サークル交流

## 彩りの人生

### 妙高高原町清琴会妙高支部

大正琴の音色に魅せられてサークルに入って十年になりました。月二回、公民館の和室で、長野から先生を迎えて、三グループが定期練習を行っており、発表の場が多いので、私達の技術向上の励みになっていくことに感謝しております。

町芸能祭、敬老会、ミニコンサート、ダンスパーティー、妙高病院のクリスマスパーティー、他に県内外の施設訪問演奏等、家族の理解に感謝しながらこれら



の行事参加に意欲を燃やしております。

レパートリーは邦楽、演歌、ジャズ、ポピュラー、クラシック、と巾広くゆうに百曲は越えておりましょうか。年と共に音感が衰えますので、その分人生のヒダの入った味のある演奏を、みんなで心掛けていこうと思っております。

館長さんが「琴を弾いている人はみんな美人だ。」と言われてたお言葉を本気に信じています。会員三十名、平均年齢五十五歳。これからも公民館の温かいご協力の下、励んでまいりますと思っております。

(清琴会妙高支部長)

新井 あさ子 (記)

## 読書サークル

### 村上市あかまつの会

「今日の課題図書は『病院で死ぬということ』です。この本は大変考えさせられる本だったと思います。皆さんはどんな感想をお持ちでしょうか。」

当番の司会で始まる読書会。これからの医療問題、ホスピスについても考えなければ。さまざまな感想や意見が交流され



る。本が好きです。すきでたまらない人達の集まりである。月一回の読書会では、その月の課題図書を各自が読み、自分なりの感想を持って会に臨み話し合うのである。仲間より読みの共通点相違点を知り、刺激を受けて自分の読みを更に深め高めていくのである。そこから時には女性らしく現実の生活と結びつけて

脱線することもありますが、それもまた楽しいひと時なのである。気ばらず、何でも話せる会の雰囲気がいからこそ、昭和48年の発足より二十年近く続いているのであろう。昭和63年には県より優良読書サークルとして賞を受け会員の一層の励みと喜びとなった。

(倉松 ノブ 記)

## 長岡市中央公民館庶務係長

細貝 真氏 (45歳)

第32回関プロ湯沢大会事務局「総合相談」担当の大関係長が十月異動し、後任としてのニュースターが細貝真氏です。



物静かなムードに似ず「心一つに喜びも悲しみもみんな力を合わせてガンガン頑張りたい」と、館内報で挨拶され、その内に秘めた情熱を感じました。信条は「中途半端なら批判されてもやらない」と言われ、

常に仕事は徹底してつめる方です。したがって、人に頼まれると断れないという男っぽさを感じます。反面、「無理しても引き受けるのでそれが短所だね」と、ぼつり人間性の一面ものぞかせられました。

そして「器用人」でイラストや機械修理を得意とし、多趣多芸ぶりに驚かされます。「車で気ままな温泉旅行でもしてみたい」というのが夢だとも語られました。それ程、今は能吏故の多忙の毎日です。いい人です。

(長岡市中央公民館 金山 茂 記)

## 素顔拝見

### 堀之内町公民館主事

児玉 政 広氏 (36歳)

自称「建設課の玉三郎」が我が公民館に配属されて、早や一年が過ぎようとしております。



真面目を絵に描いたような努力家の児玉君。もう一丁前の広報マンの顔になりました。

中すまでもなく公民館職員の仕事は夜も口曜もない激務です。加えて、彼が主として担当する「館報ほりのうち」の編集は足で稼ぎ、さらにデスクワークと大変な作業量です。

その児玉君、当面の課題はカメラワークです。建設課時代の現場写真とはひと味もふた味も違う「眼」を要求されて悩みもひとしおの様子です。

月一回発行の「館報」八ページ、年四回発行の「こども館報」六ページ、そして秋発行の「館報文芸祭」と慣れない仕事を精力的にこなしてきました。

家では、三女の子煩悩パパ。今日もカメラ片手に飛び出して行く児玉君です。

(堀之内町公民館長 市川 靖 記)

①基盤整備推進会議(必須)

事業名	事業内容	事業の規模
基盤整備推進会議	基盤整備推進事業に関する企画立案、進行管理、評価等について協議する。	年2回以上開催、構成員は7人以上であること。

②家庭・学校・地域連携促進事業

補助条件 A~Dの中から1以上選択

事業名	事業内容	事業の規模
A PTA・諸団体相互の連携活動	PTA・諸団体相互の連携による学習活動やボランティア活動	PTAを含む複数の団体を対象とし、1事業当たりの参加者は30人以上とし、年間の活動時間は20時間以上であること。
B 世代間交流・地域交流事業	世代間交流事業・地域交流事業	複数世代を対象とし、1事業当たりの参加者は30人以上、年間の活動時間は20時間以上であること。
C 学校の教育活動への住民参加事業	学校の特別活動等教育活動への地域住民参加事業	小・中学校との連携を図って、年間10時間以上とする。
D 学習・ボランティア活動への参加啓発事業	学習活動・ボランティア活動への参加啓発事業	学習活動・ボランティア活動参加啓発のための資料・パンフレット等を年4回以上作成すること。



国・県補助事業紹介(2)  
 県単独補助事業  
 「家庭・学校・地域連携促進事業」

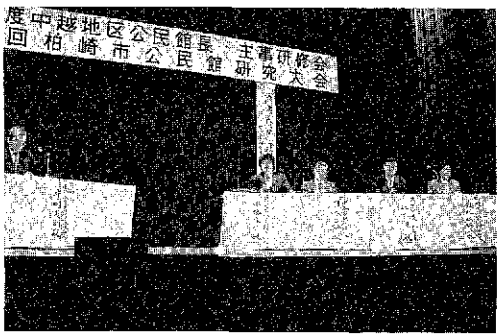
十二月号では「家庭教育ふれあい推進事業」を紹介した。しかし、この事業は予算規模がやや大きく、小さな町村では実施しにくい面もある。同じように家庭と地域の教育力の活性化をねらった当事業を紹介する。

一 事業の趣旨  
 市町村における生涯学習の基盤整備を促進する事業の一つとして、昭和六三年度から始まった補助事業であるが、次のように、年々実施市町村が減っていることが気になるところである。

二 補助金の額等  
 対象経費の実支出額の三分の一以内。補助金額は、一〇万円から三〇万円。

補助事業を実施したくても、期待される場所である。

地域連帯感の醸成、家庭・学校・地域の連携推進などを図る事業として、多くの市町村の実施が



二月二十五日(火)、柏崎市産業文化会館を会場に、中越地区公民館研究会

中越地区館長・主事研修会開催  
 柏崎市公民館研究大会と共催で

小規模町村で基準額に満たなかったり、基準の人数が集まらないなどの点を平成三年四月から改正し、複数市町村連携でも実施できるようにした。また、二つ以上の市町村で構成する団体で、市町村教育委員会に事務局を置く団体でも補助を受けることができることとなった。

三 補助条件  
 (別表)

ちなみに、平成二年度の実施市町村は次のとおり。  
 糸魚川市・柏崎市・十日町市

「生涯学習メディア利用促進事業」がある。  
 (詳細は、県生涯学習推進課「施策の方針・事業計画」参照)  
 (県教育庁生涯学習推進課 関 吉彦 記)

松代町・松之山町・能生町・小出町・大和町・川口町・鹿瀬町・安田町・小木町・蒲川原村・山古志村・湯之谷村・黒川村・三川村

なお、この基盤整備事業には、このほかに「国際交流活動促進事業」「青少年地域活動推進事業」「青少年科学活動促進事業」「生涯学習メディア利用促進事業」がある。

主事を「生涯学習時代における公民館の役割を考える」とし、去る九月実施の関プロ公研集会の成果をふまえた、今後の公民館のあり方について研究協議された。なお、当日のパネル討議実践発表は次のとおり。

パネル討議  
 ・高柳町「門出ふるさと組合副組長 小林康生 羽鳥昌治」  
 ・小千谷市公民館館長 渡辺 健  
 ・三条市中央公民館主事 飯塚依子  
 ・柏崎市公民館利用者

発行所 新潟県公民館連合会  
 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
 【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一  
 編集人 事務局長 上村 捨二郎  
 【定価1部120円 年共1,440円】

◆三月は人事異動の月、送る人迎える人、今年も多いことと思います。

退職の皆さん、長々ご苦労様でした。でも、生涯現役の時代です。共に頑張りましょう。

◆他部署へ栄転の皆さんお目出とうございました。生涯学習は「相互連携」がキーワード、他部署の窓から改めて見直して相互連携の実を。

◆新たに公民館へ赴任の皆さん、共生共助の精神で。よろしくお願いたします。(上村記)

・司会中越教育事務所社会教育課長 片桐義則  
 ・実践発表 田邊正直  
 ・大洲公民館指導員 坂井みどり

あとながき